

ひょうご伝説紀行
妖怪と自然の世界

夢前川の河童
穴淵の綱引き、大勝負

伝説

夢前川の河童
穴淵の綱引き、大勝負

紀行

河童
・前之庄穴淵の河童
・県域各地の河童伝説
・河童の考え方

関連情報

用語解説
参考書籍
所在地リスト

伝説

夢前川の河童 穴淵の綱引き、大勝負

姫路市夢前町前之庄（ひめじしゆめさきちようまえのしょう）に岡（おか）というところがあります。西側に夢前川（ゆめさきがわ）が流れていて、むかしはその川原に、村の人たちが飼っている牛や馬を放して、草を食べさせていました。川原の南の方には、高い岩山を背にして大きな淵（ふち）があります。どんなに日照りが続いても底を見たものがないというくらい深い淵で、村の人々は「穴淵（あなぶち）」と呼んでいました。

ここから西へ山を越えた反対側の谷に、「どんどが淵」という淵があります。穴淵は、じつはこの「どんどが淵」と地下でつながっているとも伝えられています。

この穴淵には、大きな河童（かっぱ）が住んでいて、川原で草を食べている牛や馬を淵へ引きこんで食べてしまうと言われていました。ある日、庄屋（しょうや）さんの家の馬が、いつものように川原で草を食べていると、首に付けた手綱（たづな）がふとしたひょうしに川の水につかってしまいました。すきをうかがっていた河童は、この手綱を取って、馬を引きこんでしまおうと力いっぱい引っかかりました。しかし、庄屋さんの馬は、たいへんな名馬で、とても強い力を持っていたのです。

川原で、河童と馬との命がけの綱引きが続きました。とうとう馬の力が少しだけ勝って、河童の甲羅（こうら）が水の上に出てしまいました。河童は水の中にいるときはものすごい力を持っていますが、甲羅が水面に出てしまうと力が出ません。ついに馬に引きずりだされ、そのまま庄屋さんの家まで引っぱって行かれてしまいました。

庄屋さんは河童を見ると、

「いつも村のものが大事にしている牛や馬を引きずりこんでしまうやつは、おまえか。覚悟（かくご）しろ。」

と、槍（やり）で一つきにしまおうとかまえました。

「どうか命ばかりはお助けください。今日までしてきた悪事は深くおわび申し上げます。お助けいただければ、よい薬の作り方をお教えますから。」

河童は手をすりあわせ、頭を地面にすりつけて頼みました。庄屋さんも、心からわびていることがわかりましたので、許してやることにしました。

河童が教えてくれた薬は、お乳の出が悪いお母さんにあげると、たくさんお乳が出るようになる薬でした。それからこの薬は、庄屋さんの家で作られるようになったということです。

（『郷土の民話』中播編をもとに作成）

紀行 河童

前之庄穴淵の河童

全国どこにでもある河童話。川遊びをする子供や水を飲みにきた馬を川に引き込んで、「尻こ玉」を抜いてしまうという恐ろしい話もあれば、逆に悪事が露見して人間に捕まり詫言証文を書かされ、薬の製法を伝授するという話もある。このサイトで紹介した「夢前川の河童」の伝説は、馬を川に引き込もうとするが失敗して秘伝薬を伝える話で、類話は数多い。

ただし、河童が伝える秘伝薬は、「骨接ぎ（ほねつぎ）の薬（外傷の治療薬）」とする話が一般的である。夢前川の河童の場合は「お乳の出がよくなる薬」となっていて、骨接ぎ薬話が一般的に流布した後に、それをアレンジしてできあがった話ではないかと考えられる。

河童がいたという、姫路市夢前町前之庄（ゆめさきちょうまえのしょう）の夢前川を訪ねてみた。この話は前之庄のうちでも、中国縦貫自動車道の南側にある岡（おか）という集落を舞台に伝わっている。岡地区で畑仕事をしてきた女性にうかがってみると、河童が出るという「穴淵（あなぶち）」は集落の南側にあるというので行ってみる。一目見ただけでたしかに深い淵であることが実感できる。夢前川が南から東向きへ流路を曲げるところで、対岸には山が迫って切り立った崖になっている。すぐ下流に、農業用水を取水する井堰（いせき）があって、ちょうどダム状になっているためにより一層水量が多く見える。ただし、見た目だけではなく実際に川底も深いようで、女性の話では、渇水の時でも底が見えたことはないという。今でも夏になると付近の子供たちが水遊びをするそうだ。岡の集落内には、この伝説に出てくる庄屋さんの子孫がお住まいのお宅もあった。



河童と雷公(錦絵 江戸名所道 戯尽 二 両国の夕立、個人蔵)



夢前川の穴淵



穴淵 深い...



穴淵遠景(正面の崖の下)

「穴淵」とつながっているとされる、姫路市夢前町高長（こうちょう）と寺（てら）の境界にある「どんどが淵」にも行ってみた。前之庄の谷筋からひとつ西側の谷で、菅生川（すごうがわ）へ合流する坪川（つぼがわ）の上流部にある。この淵は、「ひょうご伝説紀行 語り継がれる村・人・習俗」の「鹿が壺（しかがつぼ）から安志（あんじ）の里へ」で紹介した姫路市安富町関（やすとみ ちょうせき）の鹿が壺と同じで、地質学的には「ポットホール（甌穴＝おうけつ）」と呼ばれる岩盤のくぼみである。姫路市と合併する前の夢前町のころから町指定の天然記念物になっていて、「穴淵」とつながっていると伝説を含めた案内柱がたてられていた。



どんどが淵遠景



どんどが淵

県域各地の河童伝説

県域にはほかにもたくさんの河童話がある。たとえば日本民俗学を作り出した柳田國男（やなぎたくにお）も、自らの故郷の河童話を伝えている。柳田は福崎町辻川（ふくさきちょうつじかわ）の生まれで、13歳までこの地を中心に育った。生家は現在辻川山の麓に移築保存され、隣接して「柳田國男・松岡家顕彰会記念館」も建てられている。柳田が自らの人生を回顧した『故郷七十年』には、幼いころの記憶として辻川付近の民俗に関わる話もたくさん語られていて、その中に次のような市川の河童（河太郎＝ガタロ）の話も出てくる（「駒ヶ岩の河太郎」）。



柳田國男生家
（福崎町西田原）

辻川あたりでは河童はガタロというが、随分いたずらをするものであった。子供のころに、市川で泳いでいるとお尻をぬかれるという話がよくあった。それが河童の特長なわけで、私らの子供仲間でもその犠牲になったものがあった。毎夏一人ぐらいいは、尻を抜かれて水死した話を耳にしたものである。市川の川っぴちに駒ヶ岩（こまがいわ）というのがある。今は小さくなって頭だけしか見えていないが、昔はずいぶん大きかった。高さ一丈もあったであろう。それから石の根方が水面から下へまた一丈くらいあって、蒼々（あおあお）とした淵になっていた。そこで子供がよく死ぬのである。私ももう少しで死にかかった経験がある。水が渦を巻いているので引き込まれるが、あわてないで、少しじっとしていると、流れのまにまに身体が運ばれ、浅瀬へ押し流されて、浮かび上がることができる。そこであまりバタバタすると、渦の底へ引きこまれてしまうのだった。鰻（うなぎ）のたくさんとれる所で、枝釣りをよくしたものであった。

駒ヶ岩は、柳田が言うように今はそれほど大きくは見えない。しかし、岩の上に立ってみると、市川の流れはやはり少し深い淵になっていて、手頃な飛び込み台のようにも感じられる。



市川の駒ヶ岩



市川の駒ヶ岩

そのほか、河童伝説は県内だけでも無数にある。ここでは3つだけ紹介しておこう。

加古川は、その上流部、現在の丹波市氷上町（ひかみちょう）付近では、「本郷川」とも呼ばれているが、ここには「尻引きマント」と呼ばれる河童がいたという。子供が川で遊ぶとき、なまあたたかい、どんよりした日は気を付ける、とくに佐治川（さじがわ）と葛野川（かどのがわ）との合流点の下流、蔵ヶ淵（くらがふち）は危ない、と言われている。



本郷の加古川



本郷の加古川

西宮市塩瀬町生瀬（しおぜちょうなまぜ）・木元（このもと）付近にある武庫川（むこがわ）の大きな淵でも、河童話がある。武庫川が大きく湾曲している「うるしが淵」と呼ばれる淵が舞台で、ここでも子供が犠牲になると、河童のしわざとされた。淵の底で水流が巻いている渦は、河童が子供を引き込むためにつくったものと言われ、河童の好物のキュウリを食べると引き込まれやすいそうである。



武庫川 うるしが淵



武庫川 うるしが淵

豊岡市竹野町竹野では、7月に川すそ祭りという川の神の祭りが行われる。この日は、川すその神が河童（川コ）を川に放しているのので、川で遊ぶとはらわたを抜かれてしまう、と言う。



竹野海岸



竹野川河口

河童の考え方

最後に、少し堅い話になるが、河童が研究の世界でどのように語られてきているかを見ておきたい。柳田國男は、河童は古い水神の零落した姿とみた。かつては水の神として尊重され、信仰されていた水神が、時代の変化の中で地位を落とし、今日伝えられるような人間に害を与える怪物や、失敗して詫び証文を書く少々間抜けな姿になっていったとの変化を想定したのである。柳田は、河童が馬を水に引き込むとの話は、水神へ馬が捧げ物とされていたことの痕跡と見た。こうした「神が零落したものが妖怪である」との見方は、河童のみではなく、柳田の妖怪論全体に通底する仮説として述べられている。

柳田の研究には、自らが立ち上げた「民俗学」の確立のために、ひとまず日本一国を対象をしぼって研究を進める必要があるとの方針があった。これに対して、ひろくユーラシア大陸の広がりの中で河童を検討したのが石田英一郎である。

石田は、河童が馬を水に引き込む河童駒引伝説（かっぱこまひきでんせつ）は、水辺で雌馬を飼って竜や水神の子供を得るという民間信仰や、優れた馬が水の中から出現したとする伝承と共通する根源から生まれたもの、ととらえ、こうした類話がユーラシア大陸全体にわたって見られることを指摘する。そして、ユーラシア大陸では、水神と牛、馬、猿とは伝説上で密接に関わりを持っていたとし、日本各地に見られる河童駒引伝説も、こうした水神と馬との結合を物語る一類型であると位置づけた。石田によれば、ギリシャ神話のポセイドンも、牛馬と結びついた水神として河童と共通性があるという。



河童（『北斎漫画』）

しかし近年では、柳田の妖怪論を見直そうとする研究が進められている。小松和彦氏は、柳田の「神の零落した姿 = 妖怪」という考え方に異議をとなえている。妖怪の中には、たしかに神から「零落」したものも存在したであろうが、中には、はじめから神ではなく、妖怪でしかなかったものや、あるいは妖怪から神へと上昇していったものもあるのではないか、というのである。

河童に関する研究では、こうした小松氏の考え方によく合う研究として、中村禎里氏のものがある。中村氏は、河童は近世以降に現れる妖怪であるとし、近世の文献に見える河童を検討し、四段階に分けてそのイメージの変遷を明らかにした。そして、柳田説の基礎になっている祭祀（さいし）の対象となるような河童は、第四段階の18世紀末以降になってようやく現れることや、河童イメージの元になった実在の動物・人間として、カワウソ、スッポン、猿や、山の民、あるいは差別の対象となっていた人々などを示している。こうした中村氏の分析結果を、小松氏の考え方に照らして読むと、河童はむしろ妖怪から神へと上昇していく存在のようにも見えるのである。

どこにでも、といってよいほど全国的に見られる河童の伝説。しかし、その奥は深い。

用語解説

【ポットホール（甌穴）】ぼっとほーる（おうけつ）

河床が岩盤などの硬い物質でできていた場合、そこにできた割れ目などの弱い部分が水流で侵食されてくぼみとなる。そのくぼみに礫が入り、水流によって回されることで、岩盤を丸く浸食してできる穴のこと。

【柳田國男】やなぎたくにお

1875 - 1962。1875（明治8）年、現在の福崎町西田原辻川区（ふくさきちょうにしたわらつじかわく、当時の兵庫県神東郡田原村辻川）に松岡操（まつおかみさお）の6男として生まれる。11歳の時辻川の旧家三木家に預けられ、同家の蔵書を濫読したという。13歳で長兄の鼎（かなえ）に引き取られ、茨城県利根町（いばらきけんとなねちょう、当時の茨城県北相馬郡布川村）に転居した。

東京帝国大学に入学し、このころから兄井上通泰（いのうえみちやす）の紹介などで、田山花袋（たやまかた）、島崎藤村（しまざきとうそん）などの文学者との交流を持つ。大学卒業後、柳田家の養子となり、農商務省に就職し、その後法制局参事官、内閣書記官記録課長、貴族院書記官長などを歴任する。

こうした官僚としての仕事の傍ら、『遠野物語（とおのものがたり）』の刊行や雑誌『郷土研究』の創刊など、後に自らが「民俗学」として確立させる分野の研究と組織作りを進めた。1919（大正8）年に官界を辞職、以後東京朝日新聞社客員などを経て、民俗学研究の確立に専念する。戦後も自宅に民俗学研究所を設立、日本民俗学会の会長を務めるなど活躍を続けた。1962（昭和37）年死去。著作集としては、『定本柳田國男集』全31巻＋別巻5冊（筑摩書房）、『柳田國男全集』全36巻＋別巻2（筑摩書房、刊行中）などがある。

参考書籍

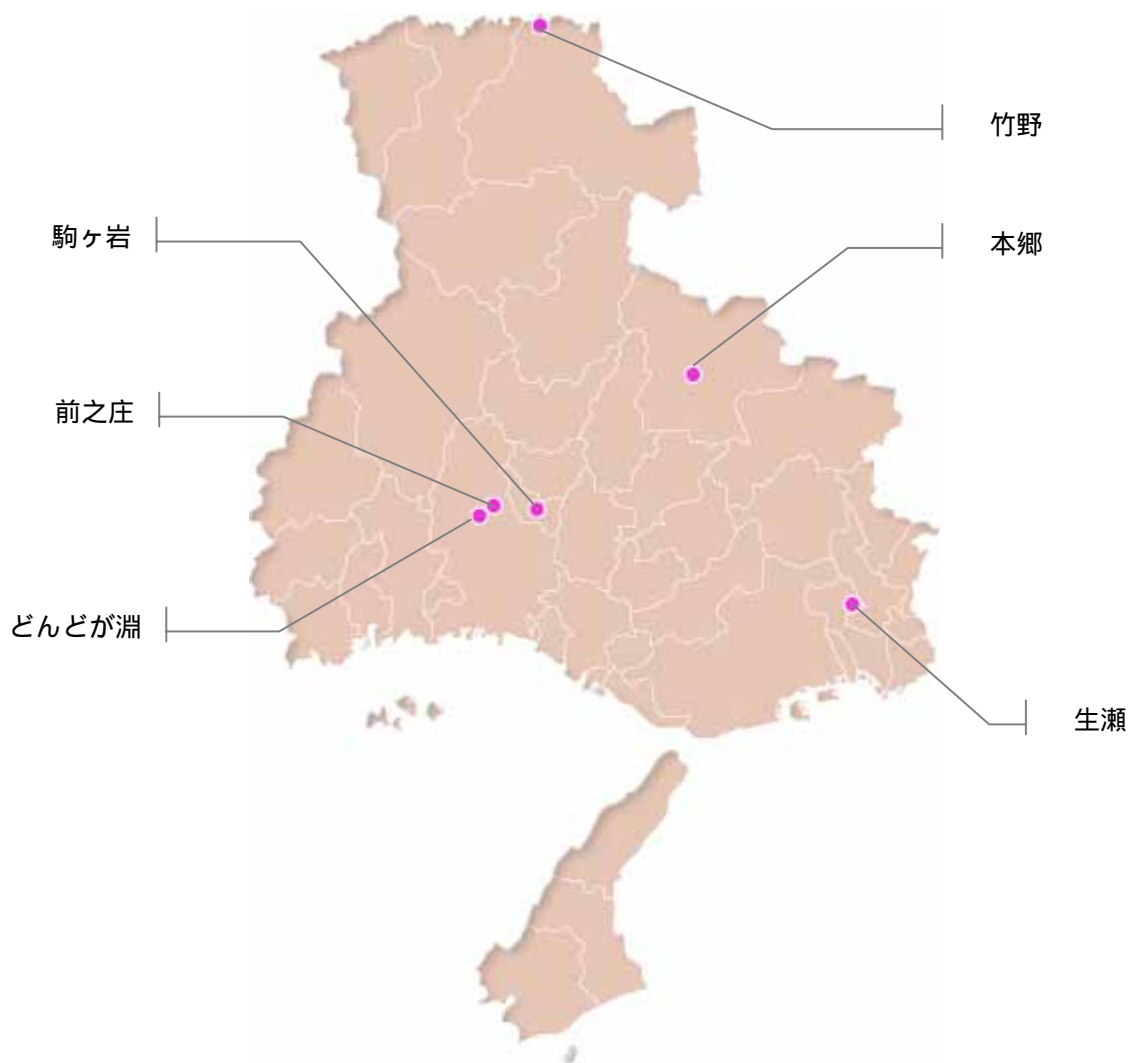
伝説の参考書籍

書籍名	刊行年	著者名	発行者
郷土の民話 中播編	1973	編集:"郷土の民話"中播地区編集委員会	兵庫県学校厚生会
日本伝説大系 8 北近畿編	1988	編集:福田晃	みずうみ書房

歴史・文化の参考書籍

書籍名	刊行年	著者名	発行者
日本伝説集	1913 (1973復刊)	高木敏雄	郷土研究社(復刊:宝文館出版)
山島民譚集(収録:『定本柳田國男集』27)	1964	柳田國男	筑摩書房
妖怪談義(収録:『定本柳田國男集』4)	1964	柳田國男	筑摩書房
故郷七十年(収録:『定本柳田國男集』別巻3)	1964	柳田國男	筑摩書房
新版 河童駒引考 比較民族学的研究 (岩波文庫青193-1)	1994 (新版初出 1966)	石田英一郎	岩波書店(新版初出:東京大学出版会)
兵庫のむかし話	1978	編著:兵庫県小学校国語教育連盟	日本標準
日本の伝説 43 兵庫の伝説	1980	宮崎修二郎、足立巻一	角川書店
西宮ふるさと民話	1990	編集:西宮市郷土資料館	西宮市教育委員会
妖怪学新考 妖怪からみる日本人の心 (MC新書18)	2007 (初出1994)	小松和彦	洋泉社(初出:小学館)
河童の日本史	1996	中村禎里	日本エディターズスクール出版部
怪異の民俗学 3 河童	2000	責任編集:小松和彦	河出書房新社
丹波(篠山市・丹波市)のむかしばなし 5	2005	編集:「丹波(篠山市・丹波市)のむかしばなし」編集委員会	(財)丹波の森協会
河童伝承大事典	2005	和田寛	岩田書院

所在地リスト



本郷	丹波市氷上町本郷
竹野	豊岡市竹野町竹野
駒ヶ岩	福崎町南田原
前之庄	姫路市夢前町前之庄
どんどが淵	姫路市夢前町高長、寺
生瀬	西宮市塩瀬町生瀬、名塩木之元

ひょうご歴史ステーション「ひょうご伝説紀行」は、兵庫県立歴史博物館により管理・運営しております。サイトで使用するテキスト・画像などのコンテンツ全般の著作権は当館に帰属し、無断での複写・転用・転載などを禁止いたします。

ひょうご伝説紀行 妖怪・自然の世界
<http://www.hyogo-c.ed.jp/~rekihaku-bo/historystation/legend3/>

編集発行 兵庫県立歴史博物館
 〒670-0012 兵庫県姫路市本町6-8 079-288-9011

第1刷 2009年4月1日